

群大研究員がプログラミング指導

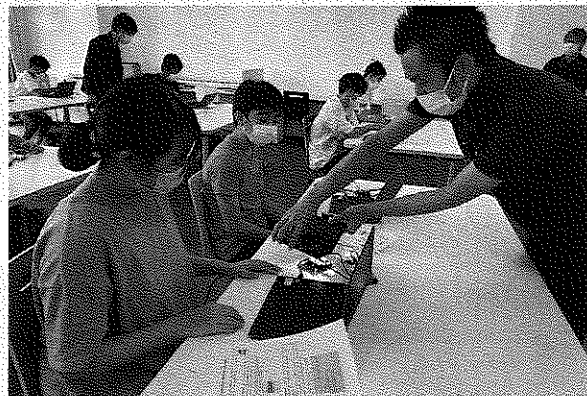
小中学生、楽しく学ぶ

みどり市

みどりの市の小中学生を対象にしたプログラミング教室が17、18の両日、市立笠懸西小学校で行われ、群馬大学大学院理工学府の電子情報部門共同研究員で、サイエンスドクターとしても活動する鹿貫悠多さんを講師に、子どもたちはロボットを動かしたり、ライトを点灯したり、プログラミングについて

楽しみながら学んでいた。小学校では2020年度から必修化されたプログラミング教育。25年の大学入試共通テストにプログラミングを含む教科「情報」の試験が設けられることが決まり、さらに注目が高まっている。みどり市では文部科学省のGIGAスクール構想に基づき、昨年

3月、市内の全児童に1人1台のタブレット端末を配備。今回、みどり市からプログラミング教室の事業委託を受けた群馬大学発のベンチャー企業「グッドアイ」(本社桐生市天神町、板橋英之会長)では、この学校で普段使用しているタブレット端末を使ってプログラミングを学べる基板を新たに開発。使用し



たプログラミング言語「Python(パイソン)」は最先端分野の開発に使われる一

方、文法が平易なため、初心者にも易しく人気という。中学生の教室ではま

周囲の明るさに対応し、ライトの強さや色を変化させるプログラミングに挑戦する中学生(笠懸西小で)

ず、「ライトを点灯させる」という基本のプログラムを書き込み、実際にライトがつくか自分の目で確かめさせた後、その命令がどんな意味を持つのかを解説し、続いて「赤、黄、緑の順でライトが点灯する」よう、書き換えにも挑戦。参加者はさらに自動的に明るさを調整するスマートライト、気温によって風量を自動で調整するスマート扇風機のプログラミングにも頭を悩ませながら楽しそうに挑んでいた。